

1時間の雨量	雨の降り方
10~20ミリ やや強い雨	ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。話し声がよく聞き取れない。地面一面に水たまりができる。
20~30ミリ 強い雨	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。寝ている人の半数が雨に気づく。ワイパーを速くしても見づらい。側溝や小川があふれ、小規模ながけ崩れが始まる。
30~50ミリ 激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50~80ミリ 非常に激しい雨	滝のように降る。傘は役に立たなくなる。水しぶきであたり一面が白くなり、視野が悪くなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80ミリ以上 猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。



昭和57年7月23日に発生した長崎大水害も集中豪雨によるものです。

集中豪雨

短時間のうちに狭い範囲に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによくおこります。非常に激しい雨が何時間も同じ場所に降り続けると、河川の氾濫や土砂災害などによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などは気象情報に十分注意し、万全の態勢をとるようにしましょう。

土砂災害に注意しましょう

土砂災害には、「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」があり、一瞬にして、尊い生命や家屋などの貴重な財産を奪うなど、甚大な被害をもたらします。これらが発生するときは、多くの場合、何らかの前兆現象が現われます。前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが大事です。

がけ崩れ	地すべり	土石流
<p>地面が雨水の浸透などでゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。瞬時に崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。</p> <p>主な前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がけにひび割れができる。 ・がけから小石がパラパラと落ちてくる。 ・がけから水が湧き出る。 ・地鳴りがする。 	<p>斜面の一部あるいは全部が地下水などの影響で、ゆっくりと動き出す現象です。一度に広範囲で発生するため、甚大な被害を及ぼします。</p> <p>主な前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地面がひび割れたり陥没したりする。 ・がけや斜面から水が噴き出す。 ・井戸や沢の水が濁る。 ・地鳴り・山鳴りがする。 	<p>谷や川底の石や砂が大雨などにより一気に下流へ押し流される現象です。破壊力が大きく、速度も速いため、大きな被害をもたらします。</p> <p>主な前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山鳴りがする。 ・急に川の水が濁り、流木が混ざり始める。 ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。



特集

防災

これからが本番！
台風・大雨に
備えましょう。

これからの季節、集中豪雨や台風時の大雨により被害が引き起こされる心配が高まってきます。このような被害を防ぐためにも、日頃の備えと点検が必要です。被害はいつ発生するかわかりません。被害を最小限に防ぐために日頃の備えについても一度点検しておきましょう。

風水害の
基礎知識

台風

熱帯低気圧のうち最大風速（10分間平均）がおよそ17m/s（メートル/秒）以上のものを「台風」と呼びます。日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害をもたらします。台風が接近している間は、大雨や強風による事故に巻き込まれないように、なるべく外へ出ないようにしましょう。

台風の大きさは「強風域（風速15m/s以上）の半径」、強さは「最大風速」で表されます。台風による被害を最小限に食い止めるためにも、最新の台風情報を確認しましょう。

台風の大きさ（強風域の半径）

大型(大きい)	500km以上
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さ（最大風速）

強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

